



Sun SPARC® Enterprise M8000/M9000 サーバ プロダクトノート

XCP 1070 版

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-4891-10
2008 年 6 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー



Please
Recycle



Adobe PostScript

インターフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。

目次

はじめに vii

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ プロダクトノート 1

XCP 1070 の新着情報 1

サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン 1

 WAN ブートサーバの使用 2

Solaris パッチに関する情報 2

 Solaris パッチのインストール 3

XCP 1070 へのアップグレード 4

一般的な機能の問題と制限 4

 SPARC64 VII プロセッサの制限 4

 一般的な機能の問題と制限 4

ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題 6

ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題 6

 XCP に関する問題と回避方法 6

 Solaris OS に関する問題と回避方法 8

 サポートされているリリースすべての Solaris に関する問題 8

 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris に関する問題 12

 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris に関する問題 15

 Sun Management Center のソフトウェアに関する問題と回避方法 17

ソフトウェアマニュアルの変更予定	17
XCP 1041 以下からのアップグレード	20
▼ アップグレードの準備をするには	20
▼ XCP 1041 以下からアップグレードするには	22
ソフトウェアの追加手順	28
WAN ブートサーバからのブート	28
▼ wanboot 実行可能ファイルのアップグレード	28
システム内の縮退メモリの識別	29
▼ システム内の縮退メモリを識別するには	29
システムボード上の異なるメモリサイズの識別	29
▼ showdevices コマンドを使用するには	30
▼ prtdiag コマンドを使用してメモリサイズを識別するには	30
ターゲットボードのカーネルメモリの識別	31
▼ ターゲットボードのカーネルメモリを識別するには	31

はじめに

本書では、マニュアルセットを発行したあとに既知となった、Sun SPARC® Enterprise M8000/M9000 サーバのハードウェア、ソフトウェア、およびマニュアルに関する重要な最新情報について説明します。

技術サポート

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのマニュアルに記載されていない技術的な質問または問題については、購入先に問い合わせてください。

米国またはカナダのユーザーの場合は、1-800-USA-4SUN (1-800-872-4786) に問い合わせてください。その他の地域のお客様は、次のWeb サイトで、最も近いWorld Wide Solution Center をお探してください。

<http://www.sun.com/service/contacting/solution.html/>

ソフトウェアリソース

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバには、Solaris™ オペレーティングシステムおよび Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプリインストールされています。

Sun Java Enterprise Server

Sun Java Enterprise Serverは、ソフトウェアの投資を最大限に活用するソフトウェアとライフサイクルサービスの包括的なセットです。概要およびドキュメントについては、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/javaes/index.html/>

注 – Java Enterprise System 5 Update 1のインストール上の問題により (CR 6644798)、ご使用のシステムでWebConsole SMFサービスを有効にしなければならない場合があります。

▼ WebConsole SMF サービスを有効にするには

- rootとして端末にログインし、次のコマンドを入力します。

```
# svcadm enable svc:/system/webconsole:console
```

ソフトウェアのリロードが必要になった場合は、次のWebサイトにアクセスして、ソフトウェアのダウンロードおよびインストールの手順を確認してください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

最新のソフトウェアをダウンロードした場合、そのソフトウェアには、ご使用のサーバに必須のパッチが含まれていない可能性があります。ソフトウェアのインストール後、必須パッチについては2ページの「[Solarisパッチに関する情報](#)」を確認し、必須パッチの確認方法およびインストール方法についてはixページの「[最新の Solaris パッチの入手](#)」を確認してください。

最新の Solaris パッチの入手

使用しているシステムには、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ用の Solaris 必須パッチがプリインストールされているはずです。使用しているバージョンの Solaris OS で必要なパッチの一覧については、2ページの「[Solarisパッチに関する情報](#)」を参照してください。

注 – Solaris 10 11/06 OS が動作している Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバでは、Sun Connection Update Manager を使用する前に、パッチ [123003-03](#) および [124171-06](#) をシステムにインストールする必要があります。これらのパッチは、必要に応じて <http://sunsolve.sun.com/> からダウンロードできます。これらのパッチは、Solaris 10 8/07 OS が動作しているサーバでは必要ありません。

Sun Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールしたり、最新の必須パッチセットでシステムを更新することができます。Sun Connection Update Manager の詳細は、次の Web サイトにある『Sun Update Connection System 1.0.8 管理ガイド』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-7283>

または、次の URL にアクセスしてください。

<http://wikis.sun.com/display/SunConnection/Update+Manager>

使用しているシステムを登録し、Sun Connection Update Manager を使用して、最新の Solaris OS パッチを入手するには、2つのオプションを使用することができます。ダウンロードしたパッチには、インストール情報および README ファイルが含まれています。

- ixページの「[Update Manager GUI を使用したパッチの入手](#)」
- ixページの「[Update Manager GUI を使用したパッチの入手](#)」

インストールに関する情報とREADMEファイルがパッチと一緒にダウンロードされます。

Update Manager GUI を使用したパッチの入手

1. Update Manager を起動します。

- 「JDS Launch」メニューで、「Launch」->「Applications」->「System Tools」->「Update Manager」の順に選択します。
- 端末ウィンドウで CLI を使用して、`/usr/bin/updatemanager` と入力します。

2. 登録を完了します。

- a. **すでに登録が完了している場合は、手順 3 に進みます。**

- b. まだ登録が完了していない場合は、Update Manager によって登録手続きに進みます。画面上の指示に従います。

注 – Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバで、Sun Connection Update Manager GUI が正常に登録できなかった場合は、コマンド行 (CLI) インターフェースのオプションを使用してパッチを入手してください。xi ページの「[smpatch CLI を使用したパッチの入手](#)」を参照してください。

3. Update Manager の「Available」タブで、「Update Collection」ドロップダウンメニューを開き、「Sun SPARC(R) Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Servers」を選択します。

Update Manager によって、必要となるパッチを判断するためにシステムが分析されます。

4. パッチ 118833-xx が推奨される場合、パッチ ID の左にあるボックスをクリックしてこのパッチ ID を選択してから、「Install」ボタンをクリックします。

パッチが /var/sadm/spool にダウンロードされます。

注 – 18833-xx はカーネルパッチで、インストールする際に特別な手順を必要とします (仕様については、パッチの README を参照)。このため、118833-xx は手動でのインストールが必要なダウンロードのみの対話型パッチです。パッチセットの残りのパッチをインストールするには、パッチ 118833-xx を最初にインストールすることが重要です。

5. 次のように入力して、処理を続けます。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip patchid-xx.jar
```

6. /var/sadm/spool/patchid-xx/README.patchid-xx ファイルに記載されているインストール手順を実行します。

7. patchid-xx のインストール後、shutdown コマンドを使用してシステムを再起動します。

reboot コマンドでは、再起動を必要とするパッチのインストールが完了しません。Update Manager、あるいは shutdown コマンドを使用してください。

```
# shutdown -i6
```

8. Update Manager をふたたび起動して、手順 3 と同様のコレクションメニューを再度選択します。

9. Update Manager が新たな分析を自動的に開始しない場合は、「Check for Updates」ボタンをクリックします。
10. パッチ ID の左にあるボックスをチェックして、一覧に表示されているパッチのいずれかを選択します。
11. 「Install」ボタンをクリックします。
Update Manager によって、パッチがダウンロードおよびインストールされます。
12. いずれかのパッチでシステムの再起動が必要な場合は、手順 7 を参照します。
再起動を必要とするパッチがインストールされた場合、UM によってシステムの再起動が行われます。または、手順 7 で使用したように、shutdown または init を使用できます。再起動を必要とするパッチの場合、パッチが実質的にインストールされるには再起動が必要です。

これでパッチのインストールが完了しました。

smpatch CLI を使用したパッチの入手

1. /usr/lib/breg/data/RegistrationProfile.properties ファイルを /tmp ディレクトリにコピーします。
2. /tmp/RegistrationProfile.properties ファイルを編集して、ユーザー名およびパスワード、必要に応じてネットワークプロキシおよびポートを追加します。

注 - ユーザー名およびパスワードは、Sun オンラインアカウントです。アカウントを作成するには、<http://sunsolve.sun.com> にアクセスしてください。

3. 次のコマンドを入力して、システムを登録します。

```
# sconadm register -a -r /tmp/RegistrationProfile.properties
```

4. 次のコマンドを入力して、使用しているシステムに適切なパッチを入手します。

```
# smpatch set patchpro.patchset=sem4k5k8k9k
```

5. 次のように、パッチ 118833-xx をインストールします。

このパッチは、Sun Connection Update Manager を使用してダウンロードできます。

- a. 次のように入力して、`/var/sadm/spool` ディレクトリにパッチをダウンロードします。

```
# smpatch update -i 118833-xx
```

- b. 次のように入力して、パッチを解凍します。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip 118833-xx.jar
```

- c. `/var/sadm/spool/118833-xx/README.118833-xx` ファイルに記載されている特有のインストール手順に従って、パッチをインストールします。

6. パッチ `118833-xx` のインストール後、`shutdown` コマンドを使用してシステムを再起動します。

`reboot` コマンドでは、再起動を必要とするパッチのインストールが完了しません。

```
# shutdown -i6
```

7. 次のコマンドを入力して、インストールするパッチの一覧を表示します。

```
# smpatch analyse
```

8. 次のコマンドを入力して、パッチをダウンロードおよびインストールします。

```
# smpatch update
```

9. いずれかのパッチでシステムの再起動が必要な場合は、手順 6 を参照します。

これでパッチのインストールが完了しました。

追加情報

詳細情報については、最新の『Solaris 10 Sun ハードウェアマニュアル』に加えて、使用している Solaris マニュアルとともに提供されるリリースノートを参照してください。また、マニュアル Web ページにアクセスして、本書を補足する追加のマニュアルがないかどうかを確認してください。最新情報は、次の URL から入手できます。

<http://jp.sun.com/documentation/>

マニュアルへのアクセス

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの設置、管理、および使用に関する手順は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのマニュアルセットに記載されています。次の Web サイトから、マニュアルセット全体をダウンロードして入手できます。

<http://jp.sun.com/documentation/>

注 – 本書に記載されている情報は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのマニュアルセットの情報よりも優先されます。

Solaris オペレーティングシステム (Solaris OS) のマニュアルは、次の URL から入手できます。

<http://jp.sun.com/documentation/>

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクトノート XCP 1070 版』、
Part No. 820-4891-10

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ プロダクトノート

本書は、以下の内容を含んでいます。

- 「XCP 1070の新着情報」 (1ページ)
- 「サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン」 (1ページ)
- 「Solarisパッチに関する情報」 (2ページ)
- 「XCP 1070へのアップグレード」 (4ページ)
- 「一般的な機能の問題と制限」 (4ページ)
- 「ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題」 (6ページ)
- 「ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題」 (6ページ)
- 「ソフトウェアマニュアルの変更予定」 (17ページ)
- 「XCP 1041以下からのアップグレード」 (20ページ)
- 「ソフトウェアの追加手順」 (28ページ)

XCP 1070の新着情報

本リリースでの新しい特徴は以下のとおりです。

- SPARC64® VIIプロセッサがサポートされます。

サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

表 1に、SPARC® Enterprise M8000/M9000サーバのXCP 1070でサポートされているソフトウェアおよびファームウェアの最小必須バージョンを示します。

表 1 ファームウェアおよびソフトウェアの最小バージョン

ソフトウェアまたはファームウェア	バージョン
XSCF Control Package	
SPARC64 VIIプロセッサ搭載 :	XCP 1070
Capacity on Demand (COD) サポート :	XCP 1050
Solaris オペレーティングシステム	
SPARC64 VIプロセッサ搭載 :	Solaris 10 11/06 (必須パッチ適用済み) *
SPARC64 VIIプロセッサ搭載 :	Solaris 10 5/08

* パッチの詳細については、「[Solarisパッチに関する情報](#)」(2ページ)を参照してください。

表 2に、XSCF Webで使用するWebブラウザの最小サポートバージョンを示します。

表 2 最小Webブラウザバージョン

Webブラウザアプリケーション	バージョン
Firefox	2.0
Microsoft Internet Explorer	6.0
Mozilla	1.7
Netscape Navigator	7.1

WANブートサーバの使用

ネットワーク上のSolaris WANブートサーバからSPARC Enterprise M8000/M9000サーバをブートする場合は、適切なwanboot実行可能ファイルをインストールして必要なハードウェアがサポートされるようにする必要があります。詳細については、「[WANブートサーバからのブート](#)」(28ページ)を参照してください。

Solarisパッチに関する情報

現在、Solaris 10 11/06 OSが動作しているサーバにのみパッチが必要です。必要なパッチは次のとおりです。

- 118833-36

- 125100-10
- 123839-07
- 120068-03
- 125424-01
- 118918-24
- 120222-21
- 125127-01
- 125670-02
- 125166-05

これらのパッチIDは、インストールする必要があるパッチの最小レベルを示しています。下2桁は、パッチの最小リビジョンレベルを示します。最新のパッチリビジョンについてはSunSolve.Sun.COMで確認し、最新のパッチの検出方法については「[最新 Solaris パッチの入手](#)」(ixページ)を参照してください。

Solarisパッチのインストール

● 次の順序でパッチをインストールします。

パッチの要件とインストールの特別な説明については、パッチのREADMEを必ず参照してください。一般的なインストール説明については、「[最新 Solaris パッチの入手](#)」(ixページ)を参照してください。

1. [118833-36](#) : ドメインをリブートしてから開始してください。
2. [125100-10](#) : その他のパッチ要件の一覧については、パッチのREADMEファイルを参照してください。
3. [123839-07](#)
4. [120068-03](#)
5. [125424-01](#)
6. [118918-24](#)
7. [120222-21](#)
8. [125127-01](#) : ドメインを再起動してから開始してください。
9. [125670-02](#)
10. [125166-05](#)

XCP 1070へのアップグレード

XCPバージョン1041以下からXCP 1070にアップグレードする場合は、「[XCP 1041以下からのアップグレード](#)」 (20ページ) の重要な説明を参照してください。

さらに新しいバージョンのXCPからアップグレードする場合の手順については、『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFユーザーズガイド』を参照してください。

一般的な機能の問題と制限

ここでは、本リリース時点でわかっているハードウェアおよびソフトウェアの問題について説明します。

SPARC64 VIIプロセッサの制限



注意 – SPARC Enterprise M8000/M9000サーバのプロセッサをSPARC 64 VIIプロセッサにアップグレードする場合は、停止交換で行ってください。SPARC 64 VIIプロセッサを本体装置に取り付ける前には、XCPソフトウェアを必ず1070にアップグレードしてください。

- SPARC Enterprise M8000/M9000サーバ内で、SPARC64 VIプロセッサとSPARC64 VIIプロセッサを混在させた構成は、本リリースではサポートされていません。
- 1つのSolarisドメインで、ドメインサイズが256仮想プロセッサを超えないようにしてください。この制限の詳細については、[表 5](#)のCR ID 6619224を参照してください。

一般的な機能の問題と制限



注意 – 動的再構成 (DR; Dynamic Reconfiguration) およびホットプラグに関する問題については、「[Solaris OSに関する問題と回避方法](#)」 (8ページ) を参照してください。

注 - 分電盤のメインラインスイッチまたはサーキットブレーカーによって、本体装置の電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待ってから電源を投入してください。

- DRとXSCFのフェイルオーバーが不整合です。DR操作中にXSCFをフェイルオーバーしないでください。DR操作が終了してからフェイルオーバーを開始してください。フェイルオーバーを先に開始した場合は、フェイルオーバーが終了してからDR操作を行ってください。
- PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP card (1027A-Z/X1027A-Z) には、下記の制限が適用されます。
 - 各ドメインで、カードを3枚以上使用することはできません。
 - PCIボックスで、これらのカードを使用することはできません。
- PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP card (4447A-Z/X4447A-Z) には、下記の上限が適用されます。
 - PCIボックス内で、カードを3枚以上使用することはできません (PCIe I/Oポートあたり2枚)。
 - ドメイン内で、カードを9枚以上使用することはできません。
- Solaris 10 5/08以前のバージョンのSolarisを使用している場合は、SPARC Enterprise M8000/M9000サーバ内の1ドメインあたり、5枚以上のIOUAカードを搭載しないでください。
- OpenBoot™ PROMファームウェアをアップデート完了の状態にするには、対象となるドメインの電源オフ/オンを必ず行ってください。
- Solaris OSがシングルユーザーモードの場合、ドメインコンソールからXSCFシェルに以降しないでください。Solaris OSがマルチユーザーモードに移行することがあります。
- CD-RW/DVD-RW ドライブユニットとテープドライブユニットを同時に使用しないでください。
- XSCFブラウザインターフェース (XSCF Web) は、PCIボックス管理機能をサポートしていません。
- PCIボックスを使用してホストサーバを外部ブートディスクドライブに接続することは、サポートされていません。
- 以下の語はXSCFファームウェアによりシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。adm、admin、apache、bin、daemon、default、ldap、nobody、ntp、operator、root、rpc、rpcuser、およびsshd
- Service Processor (SP) をNetwork Time Protocol (NTP) サーバとして使用しないでください。独立したNTPサーバを使用することによって、SPとドメインで時刻の一貫性を保つ上で最適な信頼性を得られません。NTPの詳細については、Sun Blueprintのマニュアル『Using NTP to Control and Synchronize System Clocks (<http://www.sun.com/blueprints/0701/NTP.pdf>)』を参照してください。

ハードウェアのインストールおよびサービスに関する問題

表 3に、障害変更要求IDが割り当てられている既知の問題を示します。また、これらの問題に対して実行可能な回避方法も示します。これらの問題を修正する新規パッチが入手可能かどうかを確認するには、次のサイトにアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com>

表 3 ハードウェアに関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6433420	ブート中、ドメインコンソールがMailbox timeoutまたはIOCB interrupt timeout errorを表示することがあります。	OBP (OK) プロンプトからreset-allコマンドを発行し、再起動してください。

ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題

ここでは、特定のソフトウェアとファームウェアに関する問題とその回避方法について説明します。これらの問題を修正する新規パッチを入手、および入手可能かどうかを確認するには、次のサイトにアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com>

XCPに関する問題と回避方法

表 4に、XCPに関する既知の問題とこれらの問題に対して実行可能な回避方法を示します。

表 4 XCPに関する問題と回避方法

ID	説明	回避方法
6565422	showarchivingのLatest communicationフィールドが定期的にアップデートされません。	archivingをいったん無効にしてから再度有効にすると、showarchivingのアウトプットのLatest communicationフィールドがリフレッシュされます。
6575425	通常、スタンバイ側のXSCFでXSCFコマンドを実行したとき、「Permission denied」と表示されますが、代わりに、さまざまなエラーが通知される場合があります。	スタンバイ側のXSCFで実行できるコマンドは、次のコマンドだけです。snapshot, switchscf スタンバイ側のXSCFでこれら2つのコマンド以外を実行しないでください。
6588650	バックアップXSCFへのXSCFフェイルオーバー後に、DRが実行できないことがあります。	有効な回避方法はありません。
6624646	Sun Connection Update Manager GUIの登録に失敗した可能性があります。	GUIの登録に関する問題が発生した場合は、コマンドラインインターフェース (CLI) を使用してください。
6665174	XSCFのdeleteboard(8)コマンドおよびaddboard(8)コマンドを使用してDynamic Reconfiguration操作を行うと、I/Oチャネル縮退が確認され、エラーメッセージおよび関連するereportが登録されることがあります。この問題が発生した場合は、fmdump(8)コマンドによって以下のエラーが表示されます。ereport.chassis.SPARCEnterprise.asic.ioc.ch.leaf.fe	このエラーはクリアしても差し支えありません。このエラーをクリアするには、次のコマンドを使用します。 • リソースを特定するには、次のコマンドを使用します。 fmadm faulty -ia • リソースをクリアするには、上記コマンドで特定されたリソースのuuidを使用して次のコマンドを実行します。 fmadm repair resource
6675409	CODボードでDR操作の実行中にCODライセンスキャパシティが変更されると、一部のCOD CPUがFaultedとマークされることがあります。この場合は、サービスアクションで訂正する必要があります。	CODボードでのDR操作の実行中には、CODライセンスキャパシティを変更しないでください。 CODライセンスキャパシティは、ライセンスを追加または削除 (addcodlicenseまたはdeletecodlicenseコマンドを使用) したり、ヘッドルームを変更 (setcodコマンドを使用) したりすることで変更されます。DR操作の実行中は、これらのコマンド (または同等のブラウザ操作) を使用しないでください。 CODライセンスキャパシティは、DR操作の完了後に変更できます。
6679286	setsnmpusm passwdコマンドでパスワードを設定する場合に、8文字未満でパスワードを設定すると、segmentation faultが発生します。	パスワードは常に8文字以上で設定してください。

Solaris OSに関する問題と回避方法

ここでは、Solaris OSに関する問題について説明します。表 5、表 6と表 7に、使用中のSolaris OSリリースに応じて、発生する可能性のある問題を示します。

サポートされているリリースすべてのSolarisに関する問題

表 5に、Solaris OSのサポートされているリリースすべてで発生する可能性のあるSolaris OSに関する問題を示します。

表 5 サポートされているリリースすべてでのSolaris OSに関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6449315	Solarisの <code>cfgadm(1M)</code> コマンドを実行しても、SPARC Enterprise M8000/M9000サーバ上のドメインからDVDドライブが構成解除されません。	<code>cfgadm(1M)</code> コマンドでDVDドライブを構成解除するには、事前にボリューム管理デーモン (<code>vold</code>) を無効にする必要があります。 <code>vold</code> を無効にするには、 <code>/etc/init.d/volmgt stop</code> コマンドを発行してデーモンを停止します。デバイスを取り外したり取り付けたりしたあとは、 <code>/etc/init.d/volmgt start</code> コマンドを発行してデーモンを再起動します。
6459540	SPARC Enterprise M8000/M9000サーバの内蔵テープドライブユニットがテープの処理中にタイムアウトすることがあります。 また、デバイスがシステムにQICドライブとして識別されることもあります。	以下の定義を、 <code>/kernel/drv/st.conf</code> に追加してください。 <code>tape-config-list=</code> <code>"SEAGATE_DAT DAT72-000",</code> <code>"SEAGATE_DAT__DAT72-000",</code> <code>"SEAGATE_DAT___DAT72-000";</code> <code>SEAGATE_DAT___DAT72-000=</code> <code>1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c,</code> <code>0x8c,3;</code> SEAGATE DATとDAT72-000の間には、4つの半角スペースがあります。
6511374	エラーが多すぎてメモリバンクが無効になった場合に、ブート中にメモリ変換の警告メッセージが表示されることがあります。	システムの再起動後に、 <code>fmadm repair</code> コマンドを使用して、次のブート時に問題が再現しないようにできます。
6522017	ZFSファイルシステムを使用しているドメインでは、DRが失敗することがあります。	ZFS ARCの最大サイズを小さくしてください。詳細については、担当の当社技術員に連絡してください。
6531036	ネットワークインストール後、 <code>network initialization failed</code> のエラーメッセージが繰り返し表示されることがあります。	有効な回避方法はありません。

表 5 サポートされているリリースすべてでのSolaris OSに関する問題と回避方法 (Continued)

CR ID	説明	回避方法
6533686	システムリソースでXSCFが少ない場合、カーネルメモリを再配置するDRのdeleteboardまたはmoveboard操作が次の1つまたは複数のエラーで失敗することがあります。 SCF busy DR parallel copy timeout これは、複数のドメインのホストであるQuad-XSBが構成されたシステムボードの場合にのみ当てはまります。	あとで、DR操作をやり直してください。
6535018	データベースの負荷などで多数のスレッドが同一ロックに競合した場合、スループットが低下します。	SPARC64 VIIプロセッサを含むSolarisドメインでは、最大256スレッドを超えないようにしてください。
6564332	Sun Crypto Accelerator (SCA)6000カードでホットプラグ操作を行うと、SPARC Enterprise M8000/M9000サーバがパニックまたはハングアップします。	SCA6000ドライバのバージョン1.0はホットプラグをサポートしていないため、ホットプラグ操作を行わないでください。必要なbootstrapファームウェアをアップグレードしたあと、SCA6000ドライバのバージョン1.1、およびファームウェアでホットプラグ操作がサポートされます。
6572827	SPARC Enterprise M8000/M9000プラットフォームのprttdiag -vの出力のIO Devicesセクションに「Type」という列があります。Typeでは各デバイスに対して「PCIe」、「PCIx」、「PCI」、「UNKN」のいずれかが表示されます。これらの値を表示するためのアルゴリズムに問題があります。PCI-Xリーフデバイスには「PCI」、古いPCIデバイスには「UNKN」と表示されます。	有効な回避方法はありません。
6588555	XSCFのフェイルオーバー中にカーネルメモリのDR操作を行うと、ドメインがパニックする場合があります。	DR操作中にXSFCをフェイルオーバーしないでください。DR操作が終了してからフェイルオーバーを開始してください。フェイルオーバーを先に開始した場合は、フェイルオーバーが終了してからDR操作を行ってください。
6589644	addboardコマンドを使用してSBを追加したあとにXSCFの切り替えが発生した場合、コンソールが使用できなくなります。	有効な回避方法はありません。

表 5 サポートされているリリースすべてでのSolaris OSに関する問題と回避方法 (Continued)

CR ID	説明	回避方法
6589833	DR addboardコマンドを使用し、Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HB A card (SG-XPCIE2FC-QF4)の追加を、SAPプロセスがこのカードに取り付けられているストレージデバイスにアクセスを試みるのと同じタイミングで行おうとすると、システムのハングを引き起こすことがあります。以下のカードが、情報量の多いネットワークトラフィック上で使用されていると、システムハング発生の可能性が高まります。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	有効な回避方法はありません。
6592302	DR操作が正常に終了しなかった場合は、一部のメモリが組み込まれたままになることがあります。	addboard -dコマンドを使用してボードをドメインに戻し、復旧することができます。
6614737	以下の条件下において、DRのdeleteboard(8)およびmoveboard(8)コマンドがハングアップすることがあります。 DIMMが縮退している場合 搭載メモリサイズが異なるシステムボードが存在する場合	下記に該当する場合は、DR操作をしないでください。 <ul style="list-style-type: none"> • 縮退メモリ：DIMMが縮退しているかどうかについては、XSCFのshowstatusコマンドで確認できます。詳細は、「システム内の縮退メモリの識別」(29ページ)を参照してください。 • メモリサイズが異なる：各システムボードの搭載メモリサイズは、XSCFのshowdevicesコマンド、またはドメインのprtdiagコマンドで確認できます。詳細は、「システムボード上の異なるメモリサイズの識別」(29ページ)を参照してください。 DR操作がハングアップした場合は、ドメインを再起動してください。
6619224	SPARC 64 VIIプロセッサを含むSolarisドメインが特定の異常な状況にあるとき、256スレッド以上のドメインが、長時間にわたってハングすることがあります。復旧すると、uptimeコマンドで、極めて高い平均負荷率が表示されません。	SPARC 64 VIIプロセッサを含むSolarisドメインでは、ドメインサイズが256仮想プロセッサを超えないようにしてください。これは、1つのドメイン構成内に最大32 CPU (M8000サーバの最大構成) あることを意味します。
6623226	Solarisのlockstat(1M)コマンドを実行すると、システムパニックが発生することがあります。	lockstat(1M)コマンドを使用しないでください。

表 5 サポートされているリリースすべてでのSolaris OSに関する問題と回避方法 (Continued)

CR ID	説明	回避方法
6625734	シングルドメイン環境下で、大量のプロセッサが搭載されているシステムでは、一定の作業負荷がかかるとパフォーマンスが低下することがあります。	アプリケーションプロセスをバインドする場合はプロセッサセットを使用するか、プロセッサをグループ化させるためにLWPを使用してください。詳細については、 <code>psrset(1M)</code> のman pageを参照してください。
6632549	DRによるシステムボードの追加および削除時に、ドメインのfmdサービスがmaintenanceモードになることがあります。	問題が発生したときは、ドメインのfmdサービスを再起動してください。 # <code>svcadm clear fmdt</code>
6660168	ドメイン上で <code>ubc.piowbeue-cpu</code> エラーが発生するとSolaris Fault Management <code>cpumem-diagnosis</code> モジュールが失敗し、FMAサービスが中断されることがあります。これが発生すると、コンソールログに以下のように出力されます。 SUNW-MSG-ID:FMD-8000-2K, TYPE:Defect, VER:1, SEVERITY:Minor EVENT-TIME:Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008 PLATFORM:SUNW,SPARC-Enterprise, CSN:2020642002, HOSTNAME:<hostname> SOURCE:fmd-self-diagnosis, REV: 1.0 EVENT-ID:6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1-cb03a7dd77e3 DESC:A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled.Refer to http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information. AUTO-RESPONSE:The module has been disabled.Events destined for the module will be saved for manual diagnosis. IMPACT:Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur. REC-ACTION:Use <code>fmdump -v -u <EVENT-ID></code> to locate the module.Use <code>fmadm reset <module></code> to reset the module.	<ul style="list-style-type: none"> 以下のコマンドでfmdを手動で再起動します。 <code>svcadm clear fmd</code> <code>cpumem-diagnosis</code>を再起動します。 <code>fmadm restart cpumem-diagnosis</code>
6660197	ドメインが以下のどちらかの状態の場合は、DR操作がハングする場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> 1つのドメインが256以上のCPUを含む場合 256以上のメモリエラーが検出された場合 	<p>以下の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> システム仕様ファイル (<code>/etc/system</code>) に次のパラメーターを設定します。 <code>set drmach:drmach_disable_mcopy=1</code> ドメインを再起動します。
6663570	最小番号のCPUに関係するDR操作によって、ドメインパニックが発生することがあります。	DRを使用して、CPU IDが最小のCPUのホストであるシステムボードを削除しないでください。CPU IDが最小のCPUを識別するには、Solarisの <code>prtdiag</code> コマンドを使用します。
6668237	DIMMの置換後に、対応するDIMM障害がドメインでクリアされません。	修復を記録するには、 <code>fmadm repair fmri uuid</code> コマンドを使用します。その結果、 <code>fmadm rotate</code> コマンドを使用して、残りのイベントすべてをクリアできます。

Solaris 10 5/08で修正されたSolarisに関する問題

表 6に、Solaris 10 5/08 OSで修正された問題を示します。この問題は、Solaris 10 5/08以前のサポートされているリリースで発生することがあります。

表 6 Solaris 10 5/08で修正されたSolaris OSに関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
5076574	PCIeエラーが、大規模なM8000/M9000ドメイン上、無効な障害診断につながるがあります。	以下の行を含む、 <code>/etc/fm/fmd/fmd.conf</code> ファイルを作成してください。 <pre>setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m</pre>
6348554	以下のカード上で <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを使用すると、コマンドがハングすることがあります。 <ul style="list-style-type: none">SG-XPCIE2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBASG-XPCIE1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBASG-XPCI2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-X HBASG-XPCI1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-X HBA	これらのカードに対して、 <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを実行しないでください。
6472153	SPARC Enterprise M8000/M9000 sun4uサーバ以外のサーバ上にSolarisフラッシュアーカイブを作成し、それをSPARC Enterprise M8000/M9000 sun4u サーバにインストールすると、コンソールのTTYフラグが正しく設定されません。その結果、コンソールのハングを引き起こすことがあります。	SolarisフラッシュアーカイブからSolaris OSをインストールした直後にSPARC Enterprise M8000/M9000サーバにtelnetで入り、コンソールのTTYフラグを以下のようにリセットします。 <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"</pre> <p>この作業は1回だけ実行してください。</p>
6522433	再起動後のCPU障害によって、 <code>fmdump</code> が正しいマザーボードを識別できないことがあります。	現時点で回避方法はあります。
6527811	PCIカードを搭載したPCIボックスをPCI hotplugで追加した場合、PCIボックス内のPCIカードの情報がXSCFの <code>showhardconf(8)</code> コマンドで表示されません。	有効な回避方法はあります。PCIボックス内の各PCIカードがPCI hotplugを使用して設定されていれば、PCIカード情報は正しく表示されません。

表 6 Solaris 10 5/08で修正されたSolaris OSに関する問題と回避方法 (Continued)

CR ID	説明	回避方法
6545143	kcageデーモンがkcage領域を拡張している場合、ユーザースタックがその拡張領域に存在するときは、その領域はデマップされ、flushwハンドラが実行されている間に、pt1_1パニックが発生する可能性があります。	有効な回避方法はありません。
6545685	電源投入自己テスト (POST) で修正可能なメモリエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って4DIMMまたは8DIMMに縮退することがあります。	/etc/systemの以下の設定で使用するメモリ巡回タイムアウト値を増やし、システムを再起動してください。 set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 20000
6546188	以下のカード上でホットプラグ (cfgadm) およびDR操作 (addboardおよびdeleteboard) を実行中、システムがパニックします。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	有効な回避方法はありません。
6551356	これまで未設定だったカードを設定するためにhotplug (cfgadm) を実行中、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、 WARNING:PCI Expansion ROM is not accessible というメッセージがコンソール上に表示されます。この不具合によって、以下のカードが影響を受けます。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	注 -I/O カードの取り外しには、 <code>cfgadm -c unconfigure</code> を使用しないでください。カードを完全に取り外すには、 <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを使用してください。最低 10 秒間待ってから、 <code>cfgadm -c configure</code> コマンドを使用して、カードを元のドメインに設定することができます。
6556742	DR中、DiskSuiteがmetadbを読めないとき、システムがパニックします。このバグは、以下のカードに影響します。 <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-QF4, 4Gb PCI-e Dual-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCIE1FC-QF4, 4Gb PCI-e Single-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCI2FC-QF4, 4Gb PCI-X Dual-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCI1FC-QF4, 4Gb PCI-X Single-Port Fibre Channel HBA 	metadbの複製データに別のHost Bus Adaptor経由でアクセス可能であれば、パニックは回避できます。

表 6 Solaris 10 5/08で修正されたSolaris OSに関する問題と回避方法 (Continued)

CR ID	説明	回避方法
6559504	<p>以下のカードを使用すると、コンソール上に、 馬xge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn狼yという形式のメッ セージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	このメッセージは無視しても差し支えありません。
6563785	<p>以下のカードの接続を解除したあと、すぐに再 接続すると、ホットプラグ操作が失敗する場合 があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2SCSIU320Z Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA • SGXPCI2SCSILM320-Z Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra320 SCSI HBA 	カードの接続を解除したあと、2、3秒待つてから再接続してください。
6564934	<p>以下のネットワークカードを使用している場 合、固定メモリを含むボードに対してDRの deleteboardコマンドを実行すると、接続が 壊れてしまいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	DR操作が完了したら、影響するネットワークインターフェースを再設定してください。基本的なネットワーク設定手順については、 ifconfigのman page を参照してください。
6568417	<p>CPU DR deleteboard操作が正常終了後、以 下のネットワークインターフェースを使用 中に、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>/etc/systemに以下の行を追加し、システムを再起動してください。</p> <pre>set ip:ip_soft_rings_cnt=0</pre>
6571370	<p>以下のカードを使用すると、ストレステストで データ破壊が起こる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>/etc/systemに以下の1行を追加して、システムを再起動してください。</p> <pre>set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</pre>

表 6 Solaris 10 5/08で修正されたSolaris OSに関する問題と回避方法 (Continued)

CR ID	説明	回避方法
6584984	-wを指定してbusstat (1M) コマンドを実行すると、ドメインが再起動される場合があります。	有効な回避方法はありません。 -w オプションを指定して busstat (1M) コマンドを pcmu_p で実行しないでください。
6589546	prtdiagコマンドは、以下のカードに対して、すべてのI/Oデバイスを表示しません。 <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA • SG-XPCIE1FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA 	すべてを出力する場合は、prtdiag -vコマンドを使用してください。

Solaris 10 8/07で修正されたSolarisに関する問題

表 7に、Solaris 10 8/07 OSで修正された問題を示します。この問題はSolaris 10 11/06でも発生することがあります。



注意 – Solaris 10 8/07以前のバージョンのSolarisを動作している場合、通常の操作中にシステムがパニックまたはトラップすることがあります。詳細については、表 7のCR ID 6534471を参照してください。

表 7 Solaris 10 8/07で修正されたSolaris OSに関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6303418	SPARC Enterprise M9000サーバにおいて、1ドメインあたりのCPUスレッド数が170を超えた場合、ハングアップする場合があります。	170 CPUスレッドを超えないようにしてください。 Solaris OSのpsradmコマンドを使用して余分なCPUスレッドをオフラインにし、CPUスレッドの数を1CPUコアあたり1つに制限してください。例えば、すべての奇数のCPUスレッドをオフラインにするなどです。
6498283	ドメインでpsradmを操作中にDRのdeleteboardコマンドを使用すると、システムがパニックすることがあります。	有効な回避方法はありません。
6508432	疑わしいPCIe Correctableエラー (CE) が、FMAエラーログに大量に記録されることがあります。	このようなエラーをマスクするには、 /etc/system に以下のエントリを追加し、システムを再起動してください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001

表 7 Solaris 10 8/07で修正されたSolaris OSに関する問題と回避方法 (Continued)

CR ID	説明	回避方法
6510861	PCIe Dual-Port Ultra320 SCSIコントローラカード (SG- (X) PCIe2SCSIU320Z) を使用している場合、PCIeのcorrectable error (CE) が発生するとパニックします。	この問題を回避するには、次のエントリを/etc/systemに追加してください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1
6520990	ドメインが再起動すると、SCFが同じ物理ボードを共有している他のドメインにサービスを提供できないことがあります。DR操作がデフォルトのタイムアウト時間を超え、パニックが発生する可能性があります。	以下のステートメントを/etc/systemに設定してDRタイムアウト時間を増やし、システムを再起動します。 set drmach:fmem_timeout = 30
6527781	2つのドメイン間でDVD/DATドライブを移動するときに、cfgadmコマンドで障害が発生します。	有効な回避方法はありません。DVD/テープドライブを再構成するために、問題が検出されたドメインでreboot -rを実行してください。
6530178	DRのaddboardコマンドがハングする場合があります。問題が検出されると、それ以上のDR操作はブロックされます。復旧にはドメインの再起動が必要です。	有効な回避方法はありません。
6534471	通常の操作中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。	次の/etc/systemパラメーターが正しいことを確認し、システムを再起動します。 set heaplp_use_stlb=0
6539084	ドメインにSun Quad GbE UTP x8 PCIe (X4447A-Z) カードが存在する場合は、再起動中にドメインパニックが発生する確率は低くなります。	これはパッチ125670-01で修正されました。
6539909	boot net installコマンドを使用してSolaris OSをインストールしているとき、ネットワークアクセスに以下のI/Oカードを使用しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP 	代替のネットワークカードまたはオンボードネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由でSolaris OSをインストールしてください。

Sun Management Centerのソフトウェアに関する問題と回避方法

表 8に、Sun Management Centerソフトウェアに関する問題とこれらの問題に対して実行可能な回避方法を示します。

表 8 Sun Management Centerに関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6654948	PlatAdmin System Componentsテーブルを表示するときに、アラームが表示されるまでに、約26分の遅延が発生することがあります。単に遅れるだけで、実際のエラーではありません。	有効な回避方法はありません。

ソフトウェアマニュアルの変更予定

ここでは、出版後にわかった最新のソフトウェアマニュアルに関する情報やマニュアルの変更予定を示します。

表 9 ソフトウェアマニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ用語集		SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000サーバに対応するマニュアルそれぞれに含まれている用語集は、これらのマニュアルから削除されました。これに代わり、個別のマニュアル『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000サーバ用語集』が作成されました。
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバXSCFユーザズガイド	9-6	9.2.2「サポートするブラウザ」。XSCF WebがサポートするWebブラウザの正しいリストについては、表 2を参照してください。

表 9 ソフトウェアマニュアルの変更予定 (Continued)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバXSCFユーザーズガイド	2-2	<p>2.1.1 「XSCF Shellによるセットアップの要約」。次の注を追加します。</p> <p>注 - 標準的なデフォルトのログインのほかに、SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバでは、<code>admin</code> と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能になります。その権限は <code>useradm</code> 限定であり、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名 / パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 <code>admin</code> としてログインすることはできません。このログインにパスワードはなく、またパスワードをこのログイン用に追加することもできません。</p> <p>デフォルトのユーザーとしてログインしたあとや、一時 <code>admin</code> としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録されたあとには、一時 <code>admin</code> アカウントは無効となります。</p> <p>デフォルトのログインが使用される前に一時 <code>admin</code> としてログインできない場合には、次のコマンドを実行することにより、他の誰かが上記の操作を実行していないか確認してください。</p> <pre>showuser -l</pre>

表 9 ソフトウェアマニュアルの変更予定 (Continued)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバドミニストレーションガイド	8	<p>「システムへのログイン」の項。次の注を追加します。</p> <p>注 - 標準的なデフォルトのログインのほかに、SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバでは、admin と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能になります。その権限は useradm 限定であり、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名 / パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 admin としてログインすることはできません。このログインにパスワードはなく、またパスワードをこのログイン用に追加することもできません。</p> <p>デフォルトのユーザーとしてログインしたあとや、一時 admin としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録されたあとには、一時 admin アカウントは無効となります。</p> <p>デフォルトのログインが使用される前に一時 admin としてログインできない場合には、次のコマンドを実行することにより、他の誰かが上記の操作を実行していないか確認してください。</p> <pre>showuser -l</pre>
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバドミニストレーションガイド	70	<p>「監査について」の項。「監査ファイルツール」の項の終わりに次の注を追加します。</p> <p>注 - この章ではアーカイブされたログファイルをセットアップする方法について説明します。管理者とサービスプロバイダーは、SP Security (SUNWspec) Package を使用することにより、これらのログファイルを表示することができます。使用中のサーバにアーカイブされた XSCF 監査ログファイルを表示するには、viewauditapp(8) および mergeaudit(8) オフプラットフォーム監査ファイルビューワーを使用します。</p>
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル	adduser(8) man page	<p>ユーザー名の長さは最大31文字です。adduser(8)のman pageには、誤ってユーザー名の長さは最大32文字と記述されています。</p>

表 9 ソフトウェアマニュアルの変更予定 (Continued)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバXSCFリファレンスマニ ュアル	sendbreak(8) man page	sendbreak(8)コマンドは、オペレータパネルのモードスイッチがlockedに設定されているときに、ドメインモードがonに設定されていると機能しません。詳細については、setdomainmode(8)のman pageを参照してください。
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバXSCFリファレンスマニ ュアル	viewaudit(8) man page	viewaudit(8)のman pageに示されている使用例5および6の出力例が異なります。

XCP 1041以下からのアップグレード

▼ アップグレードの準備をするには

1. lan#0インターフェースおよびlan#1インターフェース（フェイルオーバーインターフェース）上で設定されたルートをすべて削除します。

注 - ネットワーク設定がまったく変更されていない場合は、applynetwork -nコマンドは実行できません。ホスト名を現状に正しくリセットすると（sethostname）、コマンドの実行が求められます。

以下の例は、削除が必要な2つのルートを示しています。

```
XSCF> applynetwork -n
The following network settings will be applied:
xscf#0 hostname :m8000-0
xscf#1 hostname :m8000-1
DNS domain name :sun.com
nameserver      :100.200.300.400

interface       :xscf#0-lan#0
status          :up
IP address      :100.200.300.77
netmask        :255.255.254.0
route          :-n 0.0.0.0 -m 0.0.0.0 -g 100.200.300.1

interface       :xscf#0-lan#1
status          :down
```

```

IP address      :
netmask         :
route           :

interface       :xscf#0-if
status          :down
IP address      :
netmask         :

interface       :lan#0
status          :down
IP address      :
netmask         :
route          :-n 0.0.0.0 -m 0.0.0.0 -g 100.200.300.
route          :-n 0.0.0.0 -m 0.0.0.0 -g 100.200.300.2

interface       :xscf#1-lan#0
status          :down
IP address      :
netmask         :
route          :

interface       :xscf#1-lan#1
status          :down
IP address      :
netmask         :
route          :

interface       :xscf#1-if
status          :down
IP address      :
netmask         :

interface       :lan#1
status          :down
IP address      :
netmask         :
route          :

The XSCF will be reset. Continue? [y|n] :n
XSCF> setroute -c del -n 0.0.0.0 -m 0.0.0.0 -g 100.200.300.2 lan#0
XSCF> setroute -c del -n 0.0.0.0 -m 0.0.0.0 -g 100.200.300.1 lan#0
XSCF> applynetwork -y

```

2. ISNネットワークを設定します。

XCP 1050以降では、デュアルXSCF構成をサポートします。SCF間ネットワークには、2つのXSCFユニット（アクティブおよび待機）間の内部通信リンクが用意されています。

ISNネットワークにIPアドレスが明確に設定されていない場合、XCPは次のデフォルト値を使用します。

```
xscf#0-if: 192.168.1.1
xscf#1-if: 192.168.1.2
```

XSCF-LANまたはDSCPのIPアドレスがISNのデフォルトのサブネットアドレスと競合する場合は、ISNのIPアドレスを指定する必要があります。次にこの例を示します。

```
XSCF>setnetwork xscf#0-if -m 255.255.255.0 192.168.12.11
XSCF>setnetwork xscf#1-if -m 255.255.255.0 192.168.12.12
XSCF>applynetwork
```

3. adminという名前前のアカウントをすべて削除します。

すべてのXSCFアカウントの一覧を表示するにはshowuser -luコマンドを使用します。adminという名前前のアカウントはすべて、XCP 1070にアップグレードする前に削除する必要があります。adminアカウント名は予約されています。アカウントの削除にはdeleteuserコマンドを使用します。

注 – adminアカウントの詳細については、表 9、「ソフトウェアマニュアルの変更予定」(17ページ)を参照してください。

▼ XCP 1041以下からアップグレードするには

注 – XSCFユニットに「引継ぎIPアドレス」経由でアクセスしないでください。

注 – XSCFのリセット時に、LAN接続が切断されます。XCPアップグレード手順を簡素化するため、XSCFシリアル接続を使用することを推奨します。

1. プラットフォーム管理権限をもつアカウントで、XSCF#0にログインします。
2. showstatus(8)コマンドを使用して、FaultedまたはDeconfiguredの状態にあるコンポーネントが存在していないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
No failures found in System Initialization.
```

リストに何かが表示された場合、次の手順に進む前に、当社技術員にご連絡ください。

3. すべてのドメインを電源オフします。

```
XSCF> poweroff -a
```

4. すべてのドメインが停止していることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

5. オペレータパネルのキー位置をLockedからServiceに変更します。

6. XSCF snapshotを収集し、あとの参考情報としてシステムステータスをアーカイブします。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

7. `getflashimage(8)`コマンドを使用して、XCP 1070のアップグレードイメージをアップロードします。

◆例:

```
XSCF> getflashimage http://server.domain.com/XCP1070/images/DCXCP1070.tar.gz
```

XSCFU#0上のXSCF Webを使用して、XCP 1070のアップグレードイメージをアップロードすることもできます。XSCF Webと`getflashimage(8)`コマンドの使用法の詳細については、『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFユーザーズガイド』を参照してください。

8. `flashupdate(8)`コマンドを使用して、ファームウェアをアップデートします。

```
XSCF> flashupdate -c update -m xcp -s 1070
```

アップデートするXCPの版数を指定します。この例では1070です。



注意 - `flashupdate`コマンドは、片方のbankをアップデートし、XSCFをリセットしてから、もう片方のbankのアップデートを開始します。[ステップ 9](#)に進む前に、`current`と`reserve`のbankが両方ともアップデートされたことを確認してください。両方のbankがXCP版数1070を表示したら、次の手順に進んでください。

9. アップデートの完了を確認します。

```
XSCF> showlogs event
```

XSCF_B#0のアップデート中に異常が発生しないことを確認します。

10. XSCFU#0の`current`と`reserve`の両方のbankが、アップデートされたXCP版数を表示することを確認します。

```
XSCF> version -c xcp
```

```
XSCF#0 (Active )
XCP0 (Reserve): 1070
XCP1 (Current): 1070
XSCF#1 (Standby)
XCP0 (Reserve): 0000
XCP1 (Current): 0000
```

XSCF#0の`current`と`reserve`のbankがXCP版数1070を表示しない場合、当社技術員にご連絡ください。

11. `servicetag`(8)機能が有効であることを確認します。

- a. `showservicetag` (8)コマンドを使用して、`servicetag`機能のステータスを確認します。

```
XSCF> showservicetag
Disabled
```

- b. 現在無効になっている場合は、有効にする必要があります。

```
XSCF> setservicetag -c enable
Settings will take effect the next time the XSCF is rebooted.
```

- c. XSCFを再起動して、`servicetag`機能を有効にします。

```
XSCF> rebootxscf
The XSCF will be reset. Continue? [y|n] :y
```

- d. XSCFファームウェアがready状態になるまで待ちます。

これは、XSCFのREADY LEDが点灯状態になること、またはシリアルコンソールに以下のメッセージが表示されることで確認できます。

```
XSCF Initialize complete
```

12. サーバのすべての電源スイッチを30秒間オフにします。

13. 30秒後、電源スイッチをオンに戻します。

14. XSCFファームウェアがready状態になるまで待ちます。

これは、XSCF_B#0およびXSCF_B#1のREADY LEDが点灯状態になることで確認できます。

15. シリアル接続またはLAN接続を使用して、XSCFU#0にログオンします。

16. `showlogs error -v` および `showstatus`コマンドを使用して、異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

XSCF#1はまだXCP 1070を実行していないので、XSCF#0はXSCF#1と通信できません。したがって、`showstatus`で、XSCF#1に障害があると表示されるのは正常です。

XSCFのハードウェアに何らかの異常を見つけた場合は、当社技術員にご連絡ください。

17. インポートされたXCPイメージを確認し、再度アップデートします。

```
XSCF> flashupdate -c update -m xcp -s 1070
```

アップデートするXCPの版数を指定します。この例では、1070です。XSCF#1がアップデートされ、次に、XSCF#0が再度アップデートされます。

XSCF#0に対するファームウェアアップデートが完了すると、XSCF#1がアクティブになります。

18. シリアル接続またはLAN接続を使用して、XSCFU#1にログインします。

19. showlogs eventコマンドを使用して、アップデートの完了を確認します。

```
XSCF> showlogs event
```

アップデート中に異常が見つからなかったことを確認します。

20. XSCFU#0のcurrentとreserveの両方のbankが、アップデートされたXCP版数を表示することを確認します。

```
XSCF> version -c xcp
```

```
XSCF#1 (Active )
XCP0 (Reserve): 1070
XCP1 (Current): 1070
XSCF#0 (Standby)
XCP0 (Reserve): 1070
XCP1 (Current): 1070
```

XSCF#0のcurrentおよびreserveのbankがXCP版数1070を表示しない場合、当社技術員にご連絡ください。

21. XSCF間の切り替えが正しく機能することを確認します。

a. アクティブ状態とスタンバイ状態を切り替えます。

```
XSCF> switchscf -t Standby
The XSCF unit switch between the Active and Standby states.
Continue? [y|n] :y
```

b. XSCFU_B#1のREADY LEDが点灯状態になったら、シリアル接続またはLAN接続を使用して、XSCFU#0にログインします。

c. XSCF#1がスタンバイ、XSCF#0がアクティブになることを確認します。

```
XSCF> showhardconf
```

d. [ステップ 16](#)で確認して以降、新たなエラーが記録されていないことを確認しま

```
XSCF> showlogs error
```

す。

e. XSCF#1がアクティブの状態になったことを確認します。

```
XSCF> showlogs event
....
Feb 26 16:10:28 PST 2008      XSCF#1 entered active state from standby state
```

f. システムの初期化で障害が見つからなかったことを確認します。

```
XSCF> showstatus
No failures found in System Initialization.
```

22. すべてのドメインを電源オンします。

```
XSCF> poweron -a
```

23. XSCFU#0にログインし、すべてのドメインが正しく起動することを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

24. 新たなエラーが発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error
```

- 異常が見つかった場合は、適切な保守作業を行い、当社技術員にご連絡ください。
- 異常が見つからなければ、[ステップ 25](#)に進んでください。

25. オペレータパネルのキースイッチ位置をServiceからLockに戻します。

ソフトウェアの追加手順

ここでは、このマニュアルで前述したいくつかの回避方法を実現するための手順を説明します。

WANブートサーバからのブート

WANブートインストール方法を使用すると、HTTPを使用してワイドエリアネットワーク (WAN) 上にソフトウェアをブートおよびインストールすることができます。WANブートサーバからSPARC Enterprise M8000/M9000サーバをブートできるようにするには、適切なwanboot実行可能ファイルをインストールして、必要なハードウェアをサポートできるようにする必要があります。SPARC64 VIIプロセッサをサーバに追加している場合は、例えば、新規プロセッサを追加する前にこの手順を実行していても、実行する必要があります。

WANブートサーバの詳細については、使用中のSolaris 10 OSの『Solaris 10 Installation Guide:Network-Based Installations』を参照してください。Solaris 10 OSのマニュアルは次のサイトにあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

▼ wanboot実行可能ファイルのアップグレード

1. WANブートサーバにSolaris 10 OSをインストールします。

使用中のサーバに必要なバージョンのSolaris 10 OSをインストールします。最小ソフトウェア要件の詳細については、「サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン」(1ページ)を参照してください。

2. そのSolarisリリースから、インストールサーバ上の適切な場所に実行可能ファイルwanbootをコピーします。

詳細については、『Solaris 10 Installation Guide: Network-Based Installations』を参照してください。例えばSolaris 10 8/07の場合は、次のサイトにある英語マニュアルを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/820-0177/6nbuenm1?a=view>

3. Solaris 10 OSからWANブートminirootを作成します。

例えばSolaris 10 8/07の場合は、次のサイトにある英語マニュアルを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/820-0177/eypqx?a=view>

wanboot実行可能ファイルをアップグレードしないと、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000サーバは次のようなメッセージを表示して、パニックします。

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

システム内の縮退メモリの識別

▼ システム内の縮退メモリを識別するには

- XSCFにログインして、次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showstatus
```

以下は、メモリボード#5上のDIMM番号0Aのメモリが縮退された例を示しています。

```
XSCF> showstatus
      MBU_B Status:Normal;
      MEMB#5 Status:Normal;
*     MEM#0A Status:Degraded;
```

システムボード上の異なるメモリサイズの識別

ドメイン内に異なるメモリサイズのシステムボードが含まれているかを確認する場合は、以下のどちらかのコマンドを使用して、メモリサイズをリスト表示させることができます。

- XSCF上でshowdevicesコマンドを実行する
- ドメイン上でprtdiagコマンドを実行する

▼ showdevicesコマンドを使用するには

1. XSCFにログインして、次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

以下は他のシステムボードが16GBのメモリを搭載しているのに対して、システムボード00-0は64GBのメモリを搭載している例を示しています。

```
XSCF> showdevices -d 0
```

```
...
```

```
Memory:
```

```
-----
```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
01	00-0	63680	0	0x0000004000000000	260288			
01	03-0	16384	7384	0x0000034000000000	260288			
01	03-1	16384	0	0x0000030000000000	260288			
01	03-2	16384	0	0x000002c000000000	260288			
01	03-3	16384	0	0x0000028000000000	260288			

```
...
```

▼ prtdiagコマンドを使用してメモリサイズを識別するには

- ドメイン上で、prtdiagコマンドを実行します。

```
# prtdiag
```

以下は異なるメモリサイズを表示した例を示しています。

```
# prtdiag
...

===== Memory Configuration =====

LSB      Memory  Available      Memory      DIMM      # of  Mirror Interleave
Group    Size      Status         Size      DIMMs  Mode  Factor
-----  -
00      A        32768MB       okay      2048MB   16   no    8-way
00      B        32768MB       okay      2048MB   16   no    8-way
03      A        8192MB        okay      2048MB   4    no    2-way
03      B        8192MB        okay      2048MB   4    no    2-way
04      A        8192MB        okay      2048MB   4    no    2-way
04      B        8192MB        okay      2048MB   4    no    2-way
05      A        8192MB        okay      2048MB   4    no    2-way
05      B        8192MB        okay      2048MB   4    no    2-way
06      A        8192MB        okay      2048MB   4    no    2-way

...
```

ターゲットボードのカーネルメモリの識別

▼ ターゲットボードのカーネルメモリを識別するには

1. XSCFにログインして、次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

以下は、showdevices -dコマンドの出力の例を示したもので、0はdomain_idです。

```
XSCF> showdevices -d 0
```

```
...
```

```
Memory:
```

```
-----
```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
00	00-0	8192	0	0x0000000000000000	24576			
00	00-2	8192	1674	0x000003c000000000	24576			
00	00-3	8192	0	0x0000034000000000	24576			

```
...
```

4列目のperm mem MBのエントリの値がゼロ以外の場合、カーネルメモリが存在することを示します。

この例は、1674 MBのカーネルメモリが00-2にあることを示しています。

ボードにカーネルメモリがある場合、deleteboardコマンドまたはmoveboardコマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```